

「知る」「育てる」「守る」取組 今後の進め方

平成31年3月

1 . 「知る」について

(1) 取組の方向性

以下の項目を検討する必要がある。

国立研究開発法人を中心とした大学・公的研究機関と関係府省の間で安全・安心に資するシーズ・ニーズの情報共有とマッチングを推進する方法。

科学技術シーズ情報の一元化、カタログ化の在り方。

安全・安心に資する科学技術の育成に長期的視点を持って取り組むための戦略の企画・立案を支援する能力の在り方。

(2) 具体的な取組

技術ニーズの把握

ü安全・安心に関する技術ニーズ情報は、主に行政サイドが所有しているため、関係府省庁の協力を得て、内閣府(科技)が、収集する。

技術シーズの把握

ü技術シーズは膨大なため、収集した技術ニーズに資する技術シーズを調査、収集する。

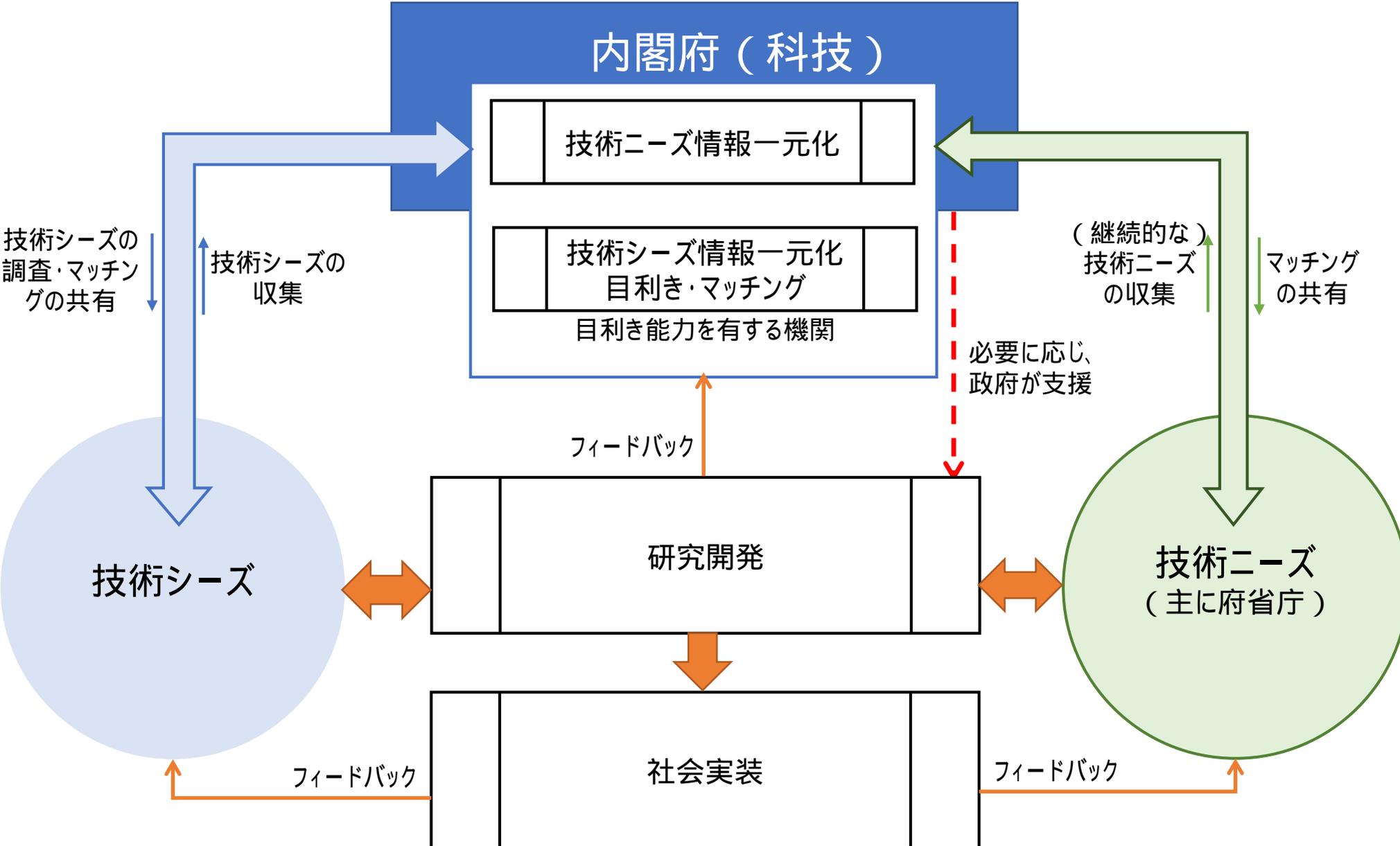
ü技術シーズの収集には目利き能力が必要であるため、目利き能力を有する機関が実施する。

目利き・マッチングの仕組み

üマッチングには目利き能力が必要であるため、目利き能力を有する機関が、マッチングを実施する。

- 将来、政策提言も行うシンクタンクとしての役割を担う可能性があることを考慮する。
- 高い専門性が必要とされる可能性があるため、複数の機関の協力を得ることを考慮する。

技術ニーズ・シーズ情報の把握と目利き・マッチングの基本的な仕組み(イメージ)



国土強靱化等において目利き・マッチングを実施している事例有り

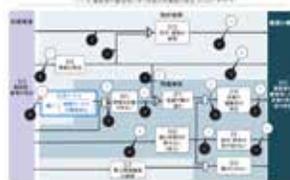
(参考) 国土強靱化における具体的な事例

技術ニーズの把握

内閣府(科技)が、国土強靱化推進室が実施した国土強靱化施策の脆弱性評価から、災害現場等で求められている技術ニーズを抽出。

「脆弱性評価の指針」に定めた対応のポイント

- ① 45の「起きてはならない最悪の事態」を設定し、17の施策分野について評価
- ② フローチャート分析の導入
○ 最悪の事態に至るロジック(事象の連鎖)をフローチャートに示して「見える化」



技術シーズの把握

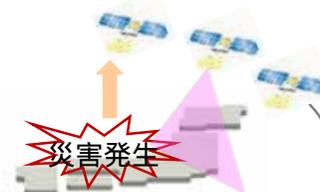
内閣府(科技)が、技術ニーズを受け、第2期SIPの開始時に、管理法人である防災科研と公募を通じて、技術シーズを収集。



目利き・マッチングの仕組み

研究課題の選定手続きを通じてマッチングを実施し、技術ニーズを有する関係省庁参加のもと、技術シーズの保有者が技術開発を開始。

昼夜、天候を問わず、広範囲の被災状況を発災後2時間以内に把握したいというニーズを、衛星コンステレーション技術を活用することにより実現



2. 「育てる」について

(1) 取組の方向性

以下の項目を検討する必要がある。

安全・安心のニーズを踏まえ、政府として着実に推進するために、科学技術予算・人的資源を重点的に配分する取組。

将来、幅広い領域で活用が期待される基盤技術に安全・安心の観点を取り込み、資源を重点的に配分する取組。

省庁横断的なスキームにより、安全・安心に貢献する技術を国全体で獲得するための方法。

(2) 具体的な取組

統合イノベーション戦略2019に重点的に推進すべき技術分野を盛り込む。

AI技術、量子科学技術といった既存の社会構造を根本から変革し得る基盤技術の活用を考慮する。

省庁横断的な研究開発プログラムにおいて、安全・安心な社会を実現するための目標を設定し、研究開発のインセンティブとする。

3 . 「守る」について

(1) 取組の方向性

以下の項目を検討する必要がある。

大学・公的研究機関、企業等における外国為替及び外国貿易法の遵守徹底に基づく安全保障貿易管理制度の推進と機微技術の適切な内部管理のための自主的な取組の促進、及び大学等に対する政府としての支援の充実と負担を低減する取組。

問題意識の喚起に活用するため、技術流出事案に関する情報を収集、分析し、必要に応じてアウトリーチ等の機会に、産業界や学术界向けに公表できる形で関係者と共有する仕組み。

安全保障貿易管理上重要な安全・安心に資する科学技術の適切管理をすべき政府研究事業を精査し、これらの要件化や公募要領での注意事項の記載について、事業の特性等も踏まえつつ、対象事業を拡大するために、対象事業とその管理手法の考え方とインセンティブの付与に関する政府方針。

(2) 具体的な取組

(経済産業省から報告)